

授業科目名： 中国語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 葉 会、熊 慧蘇、黄 耀進 、劉 靈均
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 漢語ピンイン・声調を理解し、中国語の正しい発音ができる。 ・ 簡単な日常会話を作文することができる。 ・ 簡単な日常会話をすることができる。			
授業の概要			
中国語をはじめて学ぶ人向けのクラスである。適切な発音を身につけることを中心に、簡単な日常会話ができるように学ぶ。日本語や英語とは異なる中国語の発音に慣れるよう、「口や耳」を積極的に使っていく。また、中国語の学習を通して、中華文化や華人社会についても興味を持ってもらいたいと考えている。 なお、学期の途中で台湾・高雄の文藻外語大学で行われる春季中国語研修セミナー（海外中国語集中講座）に関する特別授業を行う予定である。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：中国語という言葉について			
第2回：発音編：ピンインの習得1 声調・単母音			
第3回：発音編：ピンインの習得2 複母音・声母1（無気音・有気音）			
第4回：発音編：ピンインの習得3 声母2（そり舌音）・鼻母音・eのヴァリエーション			
第5回：発音のまとめ			
第6回：発音・聴き取り小テストと解説			
第7回：基本的な挨拶 声調変化			
第8回：本文編：はじめまして 人称代名詞・“是”			
第9回：本文編：名前の言いかた 姓名・呼びかけ			
第10回：会話の聴き取り練習1 単語に注意して聴き取る			
第11回：本文編：出身地の言いかた 指示代名詞・動詞述語文・“的”			
第12回：本文編：飲み物・食べ物 疑問詞・助動詞・反復疑問文			
第13回：会話の聴き取り練習2 意味に注意して聴き取る			
第14回：まとめ(1)（小テスト〔記述・聴き取りなど〕と解説）			
第15回：まとめ(2)（小テスト〔発音・音読など〕と解説）			

テキスト

相原茂ほか『日中いぶこみ交差点』 朝日出版社 2017年

参考書・参考資料等

必要に応じて教室で紹介します。

学生に対する評価

試験70%、授業態度30%

学期末の試験（60%）、学期中の小テスト（10%）、授業への取り組み（30%）などによって総合的に評価する。

授業科目名： 中国語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 葉 会、黄 耀進、熊 慧蘇 、鄭 安君、劉 靈均
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 漢語ピンイン・声調を理解し、中国語の正しい発音ができる。			
・ 語彙力を増やし、文法に対する理解を深め、日常会話を作文することができる。			
・ 聴き取る力を養い、簡単な日常会話をすることができる。			
授業の概要			
中国語Ⅰでの学習を踏まえて、発音・文法・作文・会話などをより発展的に学ぶ。その際、中国や台湾の風俗や文化についても触れながら、多面的な理解を促す。本学との協定校である台湾の文藻外語大学での語学研修の概要にも触れ、机上の語学学習にとどまらず、広いアプローチで中国語や中華文化、華人社会に対する関心を高めてもらいたいと考えている。そのために、授業内で語学研修に関する行う予定である。			
授業計画			
第1回：中国語Ⅰの復習			
第2回：第9課「おいくつ」 新出単語と本文の理解			
第3回：第9課 文法事項の理解			
第4回：第9課 会話練習			
第5回：第10課「和食はいかが」 新出単語と文法の理解			
第6回：第10課 文法事項の理解			
第7回：第10課 会話練習			
第8回：台湾の歴史、社会、言語、文化について。台湾語学研修の概要と報告			
第9回：第11課「家庭訪問」 新出単語の理解			
第10回：第11課 文法事項の理解			
第11回：第11課 会話練習			
第12回：第12課「買い物」 新出単語と本文の理解			
第13回：第12課 文法事項の理解			
第14回：第12課 会話練習			
第15回：まとめ			
テキスト			

相原茂『日中いぶこみ交差点』 朝日出版社 2017年

その他、授業中に指示します。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験80%、授業態度20%

期末試験・小テスト・参加意欲などから総合的に評価します。

授業科目名： 韓国／朝鮮語Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 1単位		担当教員名： 宣 元錫	
						担当形態： 単独	
科 目		教育免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標							
韓国・朝鮮語の特質を理解し、基礎を固めることを目標とします。							
到達目標							
1) ハングルの子音・母音を正確に読み書きできる。							
2) 発音変化の仕組みを理解し文を正しく読める。							
3) 挨拶や自己紹介など基礎会話を身につける。							
4) 基礎語彙を身につけ運用できる。							
授業の概要							
教科書や配布のプリントを用いてハングル文字を習得し、正しく読めるように練習を重ねていきます。文字、発音に慣れたら、会話や基礎文法を習得する学習を行います。							
授業に歌やドラマなども取り入れて楽しみながら勉強できるよう工夫します。授業は単なる講義形式ではなく、毎回出される課題をやってきて積極的に参加してもらう形で進めていきます。また、学習内容を確認するための小テストを随時行い習熟度を高めていきます。							
授業計画							
第1回：韓国・朝鮮語について、出会いの挨拶							
第2回：基本母音、別れの挨拶							
第3回：基本母音の練習、感謝の挨拶							
第4回：合成母音、謝罪の挨拶							
第5回：合成母音の練習、訪問の挨拶							
第6回：基本子音、食事の際の挨拶							
第7回：子音の広がり（激音、濃音）、待ち合わせの会話							
第8回：単語カードゲーム、単語書き取りテスト							
第9回：パッチムの発音と仕組み、外出の会話							
第10回：丁寧な平叙文、初対面の挨拶							
第11回：丁寧な疑問文、自己紹介の会話、テスト							
第12回：指定詞の練習、趣味を尋ねる会話							
第13回：助詞の使い方、好き嫌いを尋ねる会話							
第14回：存在詞の使い方、住む場所を尋ねる会話							

第15回：指示代名詞、テスト
テキスト 鄭寅玉・申奎燮『韓国語会話』 白帝社 2010年
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 試験50%、レポート25%、授業態度25%

授業科目名： 韓国／朝鮮語Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 権 赫麟
				担当形態： 単独
科 目		教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
・ ハングル文字の仕組みを理解し、正しく読む・書くことできる ・ 韓国語の基本的な文法構造及び日本語との違いを把握する ・ 韓国語による基礎的な日常コミュニケーションができる				
授業の概要				
この授業は初めて韓国語を学ぶ人を対象とする入門レベルの講義である。韓国語は語順や単語が日本語と類似しているために学びやすいといわれているが、一方では文法体系が複雑であり発音が難しいため、上達することが難しいと知られている言語でもある。そのため、単に初めて出会う韓国人に「アンニョンハセヨ」とあいさつすることにとどまるのではなく、ハングルで作成された文献から情報を取得し韓国語による有意義なコミュニケーションができるようになることを目指すのであれば、ハングルの仕組みと発音、基本的な文法体系に関してしっかり学習しておくことが求められる。 この授業では、文字としてのハングルの学習に始まって、韓国語における必要最小限の文法と簡単な日常会話を学んでいく。さらに高いレベルの韓国語の学習に備えて、入門の段階から堅実な土台を作っておくことが本授業の目標である。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：ハングルの書き方・読み方（1） 基本母音（1）				
第3回：ハングルの書き方・読み方（2） 基本母音（2）				
第4回：ハングルの書き方・読み方（3） 複合母音				
第5回：ハングルの書き方・読み方（4） 基本子音（1）				
第6回：ハングルの書き方・読み方（5） 基本子音（2）				
第7回：ハングルの書き方・読み方（6） 激音と濃音				
第8回：ハングルの書き方・読み方（7） パッチム				
第9回：ハングルの書き方・読み方（8） 発音の変化				
第10回：韓国語会話の基本表現				
第11回：韓国の基本文法（1） 平叙文（1）				
第12回：韓国の基本文法（2） 平叙文（2）				

第13回：韓国の基本文法（3） 疑問文

第14回：韓国の基本文法（4） 否定文

第15回：まとめと期末試験

テキスト

木内 明『1日10分でわかる!話せる!韓国語スタートBOOK』ナツメ社 2011年

参考書・参考資料等

木内 明『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会 2013年

学生に対する評価

試験70%、授業態度30%

授業科目名： 韓国／朝鮮語Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 申 明浩 担当形態： 単独
科 目		教育免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 初めて韓国語を学ぶことを前提にした授業である。外国語である韓国語の仕組みの理解、読み・書きが出来る事、それを用いる初級の挨拶などを目標にした授業である。				
授業の概要 韓国・朝鮮語は日本語と文法体系が似ている言語で、理解と応用は簡単である。しかし、文字の「ハングル」は日本語の仮名と全く仕組みが異なるので、まずは、文字の学習を第一到達点にし、文字を書く・読むを第一目標にする。それから、会話に入る。会話は、「～は～です」、「～は～ではありません」、「～で～をします」までの文系を学ぶ。丁寧語を使った自己紹介が出来ることが最終到達点である。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、韓国語の紹介と授業の進め方の説明 第2回：ハングルの仕組み及び文章構造―母音 第3回：ハングルの仕組み及び文章構造―子音（平音：g・b・d音） 第4回：ハングルの仕組み及び文章構造―子音（歯音：s・dz・h音） 第5回：ハングルの仕組み及び文章構造―子音（鼻音・流音）+複母音（e, ae, i+e, i+ae） 第6回：ハングルの仕組み及び文章構造―子音（激音：k・t・p・ch+複母音：ui, ei, oi） 第7回：ハングルの仕組み及び文章構造―子音（膿音：っか、って、っば、っちゃ） 第8回：中間テスト 第9回：子音の応用：パッチムを学ぶ 第10回：文を読む（日本語を韓国語で書く・韓国語で書かれた日本文を読み、意味を理解する） 第11回：会話 練習 自己紹介（挨拶をする；アンニョンハセヨ）（～は～です。助詞の運用） 第12回：会話 練習 基本文を作る/否定文（～は～ではありません） 第13回：会話 練習 述語の変化1（～は～で～ます・です：動詞、形容詞の丁寧形作り） 第14回：会話 練習 述語の変化2（用言の否定表現） 第15回：まとめ：期末テスト				
テキスト				

厳基珠・金三順外『韓国語の初歩三訂版』白水社 2019年

毎回の授業では、事前に授業内容に関するドリルとpptファイル・pdfファイルを作成、コンテンツにアップロードする。その他、必要に応じて関連資料を授業中に配布、文化の紹介も行う。

参考書・参考資料等

必要な場合は、資料を授業の前にコンテンツにアップロードする。

学生に対する評価

試験60%、授業態度30%、その他10%

平常点と試験で成績を評価する。平常点は、授業参加やコースnews、コンテンツの閲覧、小テストを評価対象とする。

授業科目名： 韓国／朝鮮語Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 申 明浩
				担当形態： 単独
科 目		教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 韓国語の読み・書きは勿論、丁寧語、尊敬語や過去形の表現を使った会話ができるようになることが到達目標である。				
授業の概要 ハングルの読み書きが出来ることが前提で受講するので、本授業はより本格的な会話を学ぶ。会話力を高めるためには、教科書に紹介された単語を覚え、語彙を増やすことを求める。また、周辺の情報や興味を生かした表現で、生きた会話を交わすと同時に、言葉使い方に力を入れる学習を目指す。そのために、相手や状況などを生かした表現（尊敬語、過去形、未来形、意思や推測の表現）を学ぶので、積極的に会話に参加することを求める。				
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業の進め方の説明と基本テスト 第2回：会話 練習 数字を学ぶ；漢字語数詞と固有語数詞を学ぶ 第3回：会話 練習 第14課 暑くありませんか。 第4回：第15課 誕生日はいつですか：軽い会話体の丁寧語 第5回：会話 練習 助詞のまとめ：今まで学んだ助詞をまとめて、活用の基盤を作る。 第6回：会話 練習 第16課 どこに住んでいますか：会話体の軽い丁寧語一語尾変化の原則を学ぶ。 第7回：会話 練習 会話練習；丁寧語、軽い丁寧形の応用 第8回：中間まとめ 第9回：会話 練習 第17課 先生はいらっしゃいますかー尊敬語を学ぶ。 第10回：会話 練習 第17課 先生はいらっしゃいますかー特集な尊敬語を学ぶ。 第11回：第18課 何を探していますか：尊敬語の平叙・疑問/命令形を学ぶ。 第12回：第18課 何を探していますか：尊敬語の平叙・疑問/命令形を学ぶ。 第13回：会話 練習 第19課 何をしましたか：過去形 第14回：会話練習；丁寧形・軽い丁寧形。尊敬語の丁寧形と軽い丁寧形を生かした会話と作文 第15回：まとめ テキスト				

厳基珠・金三順外『韓国語の初歩三訂版』白水社 2019年

毎回の授業は、事前に授業内容に関するドリルとpptファイル・pdfファイルを作成、コンテンツにアップロードする。その他、必要に応じて関連資料を授業中に配布、文化の紹介も行う。

参考書・参考資料等

必要な場合は、資料を授業の前にコンテンツにアップロードする。

学生に対する評価

試験60%、授業態度30%、その他10%

平常点と試験で成績を評価する。平常点は、授業参加やコースnews、コンテンツの閲覧、毎回の小テストと授業の参加態度も含める。

授業科目名： 韓国／朝鮮語Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 宣 元錫	
						担当形態： 単独	
科 目		教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標							
韓国・朝鮮語Ⅰで学んだ学習内容をより発展・応用させ、コミュニケーション能力の向上を目指します。							
自分自身や家族の紹介、買い物、飲食店での注文など日常生活に必要な基礎的な会話が駆使でき、日課や予定、趣味や好物などの身近な話題の内容を理解、表現できることを目標とします。							
授業の概要							
韓国・朝鮮語Ⅰで学習した知識をもとに、初級から中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、より広い範囲の会話の練習と韓国・朝鮮の文化コンテツを楽しめるための学習も行う。授業に歌やドラマなども取り入れて楽しみながら勉強できるように工夫します。授業は単なる講義形式で進めるのではなく、毎回出される課題をやりながら積極的に参加してもらう形で進めていきます。また、学習内容を確認するための小テストを随時行い習熟度を高めていきます。							
授業計画							
第1回：現在形の表現							
第2回：現在形の理由・説明の表現							
第3回：予定の表現、予定表現の会話							
第4回：未来の意思や推測、意思表示の会話							
第5回：試みと経験の表現、経験表現の会話、テスト							
第6回：勧め・勧誘の表現、K-popを歌う							
第7回：助言の表現、助言表現の会話							
第8回：動詞の連用形の運用							
第9回：動詞の連用形を使った文章表現							
第10回：連用形使った会話、テスト							
第11回：義務の表現、義務表現の会話							
第12回：許可の表現、許可表現の会話							
第13回：動詞の連体形の表現							
第14回：連体形を含む会話							

第15回：下称刑（タメ口）表現、タメ口表現の会話、テスト
テキスト 鄭寅玉・申奎燮『韓国語会話』 白帝社 2010年
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 試験50%、レポート25%、授業態度25%

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大前 元伸
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、フランス語を初めて学ぶ人を対象とする。目標は、 (1) フランス語のあいさつや簡単な会話ができるようになること (2) 発音、表現、文法の初歩を学びながら、読む、書く、聞く、話すための基礎的な力をバランスよく身につけること (3) フランス語という言葉のしくみに関心を持ち、楽しみながらフランス語圏の文化に対する理解を深め、自らの文化をとらえなおすきっかけをつかむこと である。			
授業の概要			
音声、映像、画像教材を用い、フランス語圏の人々の生活や習慣にふれながら、楽しく学習を進める。声を出し、手を動かして、読む、書く、聞く、話す練習を通じ、フランス語に親しむことから始める。名詞にみるフランス語の世界、親しみをこめた言い方や丁寧な言い方、動詞の覚え方、役立つ疑問文、発音や聞き取りのコツ、その他のポイントをおさえ、基礎を身につける。また、フランス語圏の文化、フランス語と日本語の世界観の違いにも目を向ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：発音とあいさつ			
第3回：第1課 フランス語で知り合いになる			
第4回：第1課 フランス語の主語と動詞			
第5回：第2課 自己紹介			
第6回：第2課 規則動詞と形容詞			
第7回：第3課 好きなものを伝える表現			
第8回：第3課 男性名詞と女性名詞、疑問文			
第9回：第4課 疑問代名詞、Qu'est-ce que c'est ?			
第10回：第4課 不定冠詞、動詞venir			
第11回：第5課 場所の尋ね方			
第12回：第5課 否定文			
第13回：第6課 数字を使った表現と会話			

第14回：第6課 よく使う不規則動詞、職業を表す名詞

第15回：まとめと解説

テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社 2011年

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

試験65%、その他35%

小テスト（オンライン）を何回か実施し、最終評価に加える予定です。

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 桐谷 慧
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、フランス語を初めて学ぶ人を対象とする。目標は、 (1) フランス語のあいさつや簡単な会話ができるようになること (2) 発音、表現、文法の初歩を学びながら、読む、書く、聞く、話すための基礎的な力をバランスよく身につけること (3) フランス語という言葉のしくみに関心を持ち、楽しみながらフランス語圏の文化に対する理解を深め、自らの文化をとらえなおすきっかけをつかむこと である。			
授業の概要			
音声、映像、画像教材を用い、フランス語圏の人々の生活や習慣に触れながら、楽しく学習を進める。声を出し、手を動かして、読む、書く、聞く、話す練習を通じ、フランス語に親しむことから始める。名詞にみるフランス語の世界、親しみをこめた言い方や丁寧な言い方、動詞の覚え方、役立つ疑問文、発音や聞き取りのコツ、その他のポイントをおさえ、基礎を身につける。また、フランス語圏の文化、フランス語と日本語の世界観の違いにも目を向ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：発音とあいさつ			
第3回：第1課 フランス語で知り合いになる			
第4回：第1課 フランス語の主語と動詞			
第5回：第2課 自己紹介			
第6回：第2課 規則動詞と形容詞			
第7回：第3課 好きなものを伝える表現			
第8回：第3課 男性名詞と女性名詞、疑問文、ここまでのおさらい			
第9回：第4課 Qu'est-ce que c'est ? (それは何ですか?)			
第10回：第4課 疑問代名詞、不定冠詞、日常生活でよく使う物			
第11回：第5課 場所の尋ね方			
第12回：第5課 否定文、il y a (～がある)			
第13回：第6課 数字を使った表現と会話			

第14回：第6課 よく使う不規則動詞、職業を表す名詞

第15回：まとめと解説

テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社 2011年

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

試験50%、授業態度40%、その他10%

課題の評価、授業に関連して特に積極的に学んだり探求したことが顕著に認められる場合の評価を「その他」として扱う。

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 平澤 暢之
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、フランス語を初めて学ぶ人を対象とする。			
目標は、			
(1) フランス語のあいさつや簡単な会話ができるようになること			
(2) 発音、表現、文法の初歩を学びながら、読む、書く、聞く、話すための基礎的な力をバランスよく身につけること			
(3) フランス語という言葉のしくみに関心を持ち、楽しみながらフランス語圏の文化に対する理解を深め、自らの文化をとらえなおすきっかけをつかむこと			
である。			
授業の概要			
音声、映像、画像教材を用い、フランス語圏の人々の生活や習慣にふれながら、楽しく学習を進める。声を出し、手を動かして、読む、書く、聞く、話す練習を通じ、フランス語に親しむことから始める。名詞にみるフランス語の世界、親しみをこめた言い方や丁寧な言い方、動詞の覚え方、役立つ疑問文、発音や聞き取りのコツ、その他のポイントをおさえ、基礎を身につける。また、フランス語圏の文化、フランス語と日本語の世界観の違いにも目を向ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：発音とあいさつ			
第3回：第1課 フランス語で知り合いになる			
第4回：第1課 フランス語の主語と動詞			
第5回：第2課 自己紹介			
第6回：第2課 規則動詞と形容詞			
第7回：第3課 好きなものを伝える表現			
第8回：第3課 男性名詞と女性名詞、定冠詞、疑問文			
第9回：第4課 「それはなんですか？」 Qu'est-ce que c'est ?			
第10回：第4課 不定冠詞、疑問代名詞 que、動詞venir			
第11回：第5課 場所の尋ね方			
第12回：第5課 否定文			

第13回：第6課 数字を使った表現と会話

第14回：第6課 よく使う不規則動詞、職業を表す名詞

第15回：まとめと解説

テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社

追加のプリント等がある場合は、授業中、またはmanabaを通じて配布・配信する。

参考書・参考資料等

授業中に指示、紹介する。

学生に対する評価

試験50%、授業態度40%、その他10%

課題の評価、授業に関連して特に積極的に学んだり探求したことが顕著に認められる場合の評価を「その他」として扱う。

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山下 雄大
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、フランス語を初めて学ぶ人を対象とする。目標は、 (1) フランス語のあいさつや簡単な会話ができるようになること (2) 発音、表現、文法の初歩を学びながら、読む、書く、聞く、話すための基礎的な力をバランスよく身につけること (3) フランス語という言葉のしくみに関心を持ち、楽しみながらフランス語圏の文化に対する理解を深め、日本に暮らす自らの文化をとらえなおすきっかけをつかむこと である。			
授業の概要			
音声、映像、画像教材を用い、フランス語圏の人々の生活や習慣にふれながら、楽しく学習を進める。声を出し、手を動かして、読む、書く、聞く、話す練習を通じ、フランス語に親しむことから始める。名詞にみるフランス語の世界、親しみをこめた言い方や丁寧な言い方、動詞の覚え方、役立つ疑問文、発音や聞き取りのコツ、その他のポイントをおさえ、基礎を身につける。また、フランス語圏の文化、フランス語と日本語の世界観の違いにも目を向ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：発音とあいさつ			
第3回：第1課 フランス語で知り合いになる			
第4回：第1課 フランス語の主語と動詞			
第5回：第2課 自己紹介			
第6回：第2課 規則動詞と形容詞			
第7回：第3課 好きなものを伝える表現			
第8回：第3課 男性名詞と女性名詞、疑問文			
第9回：第4課 Qu'est-ce que c'est ?			
第10回：第4課 疑問代名詞、不定冠詞、動詞venir			
第11回：第5課 場所の尋ね方			
第12回：第5課 否定文			
第13回：第6課 数字を使った表現と会話			

第14回：第6課 よく使う不規則動詞、職業を表す名詞

第15回：まとめと解説

テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社 2011年

参考書・参考資料等

学習の参考になりそうな文献・映像資料に関しては、授業内でその都度言及する。

学生に対する評価

試験60%、授業態度40%

授業科目名： フランス語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 平澤 暢之
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、フランス語Ⅰの単位をすでに修得した人を対象とする。 フランス語Ⅰの復習をまじえ、楽しく学びながらフランス語の力をさらにのばす。目標は、 (1) ごく簡単なフランス語で相手とやりとりができるようになること (2) 仏検の初級レベルの問題をこなせるようになること (3) フランス語圏の文化に対する理解を、新しい発想へとつなげる力を養うこと である。			
授業の概要			
音声、映像、画像教材を用い、フランス語圏の人々の生活や習慣にふれながら、楽しく学習を進める。必要に応じてフランス語Ⅰの内容を復習しながら、読む、書く、聞く、話す練習を通じ、フランス語で伝えたり理解したりする能力をのばす。レストランに行く、買い物をする、天候や時間について尋ねるなど、日頃使ってみたい表現を学び、身につけると同時に、フランス語という言葉のしくみを概観し、言語のさまざまな役割と、文化への影響にも目を向ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：これまでに習ったフランス語の復習			
第3回：第7課 レストランで使うフランス語			
第4回：第7課 重要な不規則動詞、前置詞と定冠詞の縮約			
第5回：第8課 所有や帰属を表す形容詞			
第6回：第8課 家族に関する表現			
第7回：第9課 買い物に役立つ表現			
第8回：第9課 日用品の名前、ものを指し示す言葉			
第9回：第10課 命令形、補語人称代名詞			
第10回：第10課 曜日と月の言い方			
第11回：第11課 代名動詞			
第12回：第11課 代名動詞と非人称構文			
第13回：第12課 人について尋ねる疑問文			

第14回：第12課 過去の言い表し方

第15回：まとめと解説

テキスト

藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社 2011年

追加のプリント等がある場合は、授業中、またはmanabaを通じて配布・配信する。

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

試験50%、授業態度40%、その他10%

課題の評価、授業に関連して特に積極的に学んだり探求したことが顕著に認められる場合の評価を「その他」として扱う。

授業科目名： フランス語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 山下 雄大
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、フランス語Ⅰをすでに履修した人を対象とする。目標は、 （1）フランス語Ⅰで学んだことを再度確認、しっかり復習しながら、より多くの言葉や文に触れ、言葉のしくみを深く学ぶこと （2）仏検初級レベルの問題に解答できるようになること （3）フランスやフランス語文化圏をはじめとした異文化や国際関係への興味と理解を新しい発想へとつなげる力を養うこと である。			
授業の概要 音声、映像、画像教材を用い、文法をより深く学ぶとともに、書く、読む、聞く、話す能力をバランスよく伸ばす。日常的なフランス語の会話表現を理解し、言いたいことや書きたいことを伝えられるように練習する。フランス語Ⅰで十分に理解できなかった点や忘れてしまった内容を改めて学び、自主的な復習や授業での補足説明を通じて着実に力をつける。			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：フランス語Ⅰの復習 第3回：第7課 レストランで使うフランス語 第4回：第7課 重要な不規則動詞、前置詞と冠詞 第5回：第8課 所有を示す言葉、家族に関する表現 第6回：第8課 人称代名詞の強勢形、「～と言う」 第7回：第9課 指示形容詞と指示代名詞、日用品の名前 第8回：第9課 形容詞の比較級、買い物に役立つ表現 第9回：第10課 命令形、補語人称代名詞 第10回：第10課 曜日と月の言い方 第11回：第11課 代名動詞 第12回：第11課 特殊な形の形容詞、天候、時刻の表現と非人称構文 第13回：第12課 人について尋ねる疑問文 第14回：第12課 過去の言い表し方			

第15回：まとめと解説
テキスト 藤田裕二『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社 2011年
参考書・参考資料等 学習の参考になりそうな文献・映像資料に関しては、授業内でその都度言及する。
学生に対する評価 試験60%、授業態度40% 授業の進捗程度に合わせて、参加者の理解度を確認するために小テストの実施を予定している。

授業科目名： フランス語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 桐谷 慧
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、フランス語Ⅰの単位をすでに修得した人を対象とする。 フランス語Ⅰの復習をまじえ、楽しく学びながらフランス語の力をさらにのばす。目標は、 (1) ごく簡単なフランス語で相手とやりとりができるようになること (2) 仏検の初級レベルの問題をこなせるようになること (3) フランス語圏の文化に対する理解を、新しい発想へとつなげる力を養うこと である。			
授業の概要			
音声、映像、画像教材を用い、フランス語圏の人々の生活や習慣にふれながら、楽しく学習を進める。必要に応じてフランス語Ⅰの内容を復習しながら、読む、書く、聞く、話す練習を通じ、フランス語で伝えたり理解したりする能力をのばす。レストランに行く、買い物をする、天候や時間について尋ねるなど、日頃使ってみたい表現を学び、身につけると同時に、フランス語という言葉のしくみを概観し、言語のさまざまな役割と、文化への影響にも目を向ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：フランス語Ⅰの復習			
第3回：第7課 レストランで使うフランス語			
第4回：第7課 重要な不規則動詞、前置詞と冠詞			
第5回：第8課 所有を示す言葉、家族に関する表現			
第6回：第8課 人称代名詞の強勢形、「～と言う」			
第7回：第9課 指示形容詞と指示代名詞、日用品の名前			
第8回：第9課 形容詞の比較級、買い物に役立つ表現、ここまでのおさらい			
第9回：第10課 命令形、補語人称代名詞			
第10回：第10課 曜日と月の言い方			
第11回：第11課 代名動詞			
第12回：第11課 特殊な形の形容詞、天候、時刻の表現と非人称構文			
第13回：第12課 人について尋ねる疑問文			

第14回：第12課 過去の言い表し方

第15回：まとめと解説

テキスト

藤田裕二 『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社 2011年

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

試験50%、授業態度40%、その他10%

課題の評価、授業に関連して特に積極的に学んだり探求したことが顕著に認められる場合の評価を「その他」として扱う。

授業科目名： ドイツ語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 堀 弥子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
初めてドイツ語を学ぶ学生が、読み書きするのに必要なドイツ語文法の初歩を習得すると同時に、コミュニケーションに必要な会話力の基礎も身につけることを目標とする。			
授業の概要			
ドイツ語の発音から始めて、徐々にドイツ語の基本的なしくみを学び、自分でも使えるように練習する。また、簡単な会話演習を行なう。			
授業計画			
第1回：導入、「ドイツはどんな国?」、アルファベット、「あいさつ (1) 」			
第2回：発音、Lektion 1A 人称代名詞など			
第3回：Lektion 1A 「動詞の現在人称変化 (1) 」など			
第4回：Lektion 1A 「ドイツ語の文の作り方 (1) 」、疑問詞など			
第5回：Lektion 1A 「数詞を覚えよう (1) 」 Lektion 1B seinとhabenの現在人称変化			
第6回：Lektion 1B 「ドイツ語の文の作り方 (1) 」、「発音の都合により少し異なった現在人称変化をする動詞」			
第7回：Lektion 1B 「あいさつ (2) 」 Lektion 2A 名詞の性と冠詞			
第8回：Lektion 2A 「数詞を覚えよう (2) 」、冠詞と名詞の格変化、「名詞の性と格について」			
第9回：Lektion 2A 冠詞と名詞の格変化の続き、2格の用法			
第10回：Lektion 2A 冠詞と名詞の格変化の続き、「値段の表現」			
第11回：Lektion 2B 「名詞の数について」、所有冠詞			
第12回：Lektion 2B 所有冠詞の続き、職業や身分を表す名詞の女性形			
第13回：Lektion 2B 否定冠詞			
第14回：Lektion 2B 否定冠詞の続き、否定文			
第15回：まとめと解説			
テキスト			
新野守広他『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社 2018年			
・プリントを配布することがある。			
・独和辞典を参照できることが望ましい（図書館にもあります。辞書を引くことができないと			

、学習上かなり不便です。参照すると、理解度が増し、学習がはかどります）。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

試験70%、授業態度15%、その他15%

試験の結果のほか、小テスト、宿題の解答などによって評価する。

授業科目名： ドイツ語Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中川 純子
				担当形態： 単独
科 目		教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
初めてドイツ語を学ぶ学生が、読み書きするのに必要なドイツ語文法の初歩を習得すると同時に、コミュニケーションに必要な会話力の基礎も身につけることを目標とする。				
授業の概要				
ドイツ語の発音から始めて、徐々にドイツ語の基本的なしくみを学び、自分でも使えるように練習する。また、簡単な会話演習を行なう。				
授業計画				
第1回：全体ガイダンス、アルファベット、ドイツ語の発音の基本				
第2回：Lektion 1A あいさつ、ドイツ語の文の作り方1				
第3回：Lektion 1A 数詞を覚えよう				
第4回：Lektion 1A du/ihrとSie				
第5回：Lektion 1B 動詞の現在人称変化（1）				
第6回：Lektion 1B seinとhabenの現在人称変化				
第7回：Lektion 1B 発音の都合により異なった変化をする動詞				
第8回：中間試験				
第9回：Lektion 2A 名詞の性と冠詞				
第10回：Lektion 2A 冠詞と名詞の格変化				
第11回：Lektion 2A 値段の表現				
第12回：Lektion 2B 所有冠詞				
第13回：Lektion 2B 所有冠詞、会話文				
第14回：Lektion 2B 否定冠詞				
第15回：期末試験とフィードバック				
テキスト				
新野守広 他『シュトラッセ・ノイVer.3.0』朝日出版社 2021年				
参考書・参考資料等				
授業内で案内します。				
学生に対する評価				
試験70%、授業態度10%、その他20%				

平常点（授業での発言、宿題）と試験によって総合的に判断する。

授業科目名： ドイツ語 I		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中川 純子
				担当形態： 単独
科 目		教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
初めてドイツ語を学ぶ学生が、読み書きするのに必要なドイツ語文法の初歩を習得すると同時に、コミュニケーションに必要な会話力の基礎も身につけることを目標とする。				
授業の概要				
ドイツ語の発音から始めて、徐々にドイツ語の基本的なしくみを学び、自分でも使えるように練習する。また、簡単な会話演習を行なう。				
授業計画				
第1回：全体ガイダンス、アルファベット、ドイツ語の発音の基本				
第2回：Lektion 1A あいさつ、ドイツ語の文の作り方 1				
第3回：Lektion 1A 数詞を覚えよう1、du/ihrとSie				
第4回：Lektion 1B ドイツ語の文の作り方 2				
第5回：Lektion 1B ドイツ語の文の作り方 2、あいさつ				
第6回：Lektion 2A 数詞を覚えよう2、値段の表現				
第7回：Lektion 2A 数詞を覚えよう2、値段の表現				
第8回：Lektion 2B 名詞の性について				
第9回：Lektion 2B 名詞の性について				
第10回：中間試験				
第11回：Lektion 3A 疑問文に対する答え方、時刻の表現				
第12回：Lektion 3A 疑問文に対する答え方、時刻の表現				
第13回：Lektion 3B 定冠詞類と不定冠詞類、3格と4格の順番、疑問詞のいろいろ				
第14回：Lektion 3B 定冠詞類と不定冠詞類、3格と4格の順番、疑問詞のいろいろ				
第15回：期末試験とフィードバック				
テキスト				
新野守広 他『シュトラッセ・ノイVer. 3.0』朝日出版社 2021年				
参考書・参考資料等				
授業内で案内します。				
学生に対する評価				
試験70%、授業態度10%、その他20%				

平常点（授業での発言、宿題）と試験によって総合的に判断する。

授業科目名： ドイツ語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鈴木 里香
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
初めてドイツ語を学ぶ学生が、ドイツ語を読み書きするのに必要な文法の初歩を習得すると同時に、コミュニケーションに必要な、会話力の基礎も身につけることを目標とする。			
授業の概要			
ドイツ語の発音から始めて、徐々にドイツ語の基本的なしくみを理解し、自分でも使えるように練習する。また、折にふれてドイツ文化についても学ぶ。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、アルファベット、簡単な挨拶			
第2回：発音、自己紹介(導入)			
第3回：第1課A 動詞の現在人称変化、挨拶（1）			
第4回：第1課A ドイツ語の文の作り方			
第5回：第1課Aの復習と練習、数詞			
第6回：第1課B sein, haben の現在人称変化			
第7回：第1課B 注意が必要な動詞			
第8回：第1課Bの復習と練習、挨拶（2）、Lesetext(読解)			
第9回：第2課A 名詞の性と冠詞			
第10回：第2課A 冠詞と名詞の格変化			
第11回：第2課Aの復習と練習、Lesetext			
第12回：第2課B 所有冠詞			
第13回：第2課B 否定冠詞			
第14回：第2課Bの復習と練習、 Lesetext			
第15回：まとめと解説			
テキスト			
新野守広ほか『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社 補足プリントを配布することがある。			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			

試験70%、授業態度15%、その他（小テスト） 15%

授業科目名： ドイツ語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 堀 弥子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
「ドイツ語Ⅰ」を履修した学生が、ドイツ語のしくみをさらに理解し、ドイツ語の基礎を身につけることをめざす。それによって、やさしいドイツ語の文章を読む力や、基礎的な会話力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
「ドイツ語Ⅰ」で学んだ内容をふまえて、さらに着実に力がつくように演習形式で授業を進める。必要に応じて音声・映像教材なども用い、読む・書く・聞く・話す練習をバランスよく行う。			
授業計画			
第1回：ドイツ語の初歩の復習			
第2回：Lektion 3A 「疑問文に対する答え方」、「動詞の現在人称変化（2）」			
第3回：Lektion 3A 「動詞の現在人称変化（2）」の続き、時刻の表現			
第4回：Lektion 3A 「命令・依頼の表現」			
第5回：Lektion 3B 定冠詞類の格変化			
第6回：Lektion 3B 人称代名詞の格変化			
第7回：Lektion 3B 3格と4格の語順、疑問代名詞の格変化			
第8回：Lektion 4A 曜日・月・季節の名称、前置詞			
第9回：Lektion 4A 前置詞の続き			
第10回：Lektion 4B 枠構造、話法の助動詞			
第11回：Lektion 4B 話法の助動詞の続き、分離動詞			
第12回：Lektion 4B 分離動詞の続き			
第13回：Lektion 5A 動詞の3基本形、現在完了			
第14回：Lektion 5A 現在完了の続き			
第15回：まとめと解説			
テキスト			
新野守広他『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社 2017年			
・プリントを配布することがある。			
・独和辞典を参照できることが望ましい（図書館にもあります。辞書を引くことができないと			

、学習上かなり不便です。参照すると、理解度が増し、学習がはかどります）。

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

試験70%、授業態度15%、その他15%

試験の結果、小テスト、宿題の解答などによって評価する。

授業科目名： ドイツ語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中川 純子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 「ドイツ語Ⅰ」を履修した学生が、ドイツ語のしくみをさらに理解し、ドイツ語の基礎を身につけることをめざす。それによって、やさしいドイツ語の文章を読む力や、基礎的な会話力を身につけることを目標とする。			
授業の概要 「ドイツ語Ⅰ」で学んだ内容をふまえて、さらに着実に力がつくように演習形式で授業を進める。必要に応じて音声・映像教材なども用い、読む・書く・聞く・話す練習をバランスよく行う。			
授業計画 第1回：全体ガイダンス、ドイツ語Ⅰの振り返り 第2回：Lektion 3A 動詞の現在人称変化(2) 第3回：Lektion 3A 命令・依頼の表現 第4回：Lektion 3B 定冠詞類の格変化 第5回：Lektion 3B 人称代名詞の格変化 第6回：Lektion 3B werとwasの格変化 第7回：中間試験 第8回：Lektion 4A 前置詞 第9回：Lektion 4A 前置詞の格支配 第10回：Lektion 4A 前置詞の格支配 第11回：Lektion 4B 話法の助動詞1 第12回：Lektion 4B 話法の助動詞2 第13回：Lektion 4B 分離動詞 第14回：これまでの復習 第15回：期末試験とフィードバック			
テキスト 新野守広 他『シュトラッセ・ノイVer.3.0』朝日出版社 2021年			
参考書・参考資料等 授業内で案内します。			

学生に対する評価

試験70%、授業態度10%、その他20%

平常点（授業での取り組み、宿題）と試験の結果から総合的に評価します。

授業科目名： イタリア語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Martina Diego
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業はイタリア語をはじめて学ぶ人を対象とする。イタリア語で初歩的なコミュニケーションを図ることを目標に、基本的な文法や単語を学ぶ。イタリア語 I とイタリア語IIを合わせて1年間分の授業で、日常生活に必要なイタリア語の基礎が理解できるようになる。			
授業の概要			
教科書に沿って授業を進める。教科書はイタリア語の初歩的な対話と単語で構成されている。教科書を一緒に読みながら、基本となる文法や単語を少しずつ学んでゆく。よく使われる表現を口頭で繰り返し練習し、自在に使えるようにする。さらに巻末の練習問題を解きながら、簡単なイタリア語の文を読むこと、書くことにも取り組む。			
授業計画			
第1回：文字の読み方、挨拶、飲み物や食べ物を注文する			
第2回：カフェのメニューに関する表現を学ぶ			
第3回：サンドイッチの中身を尋ねる、「この～はおいしい」と表現する			
第4回：名前を尋ねる、「これは～です」と表現する			
第5回：年齢を尋ねる			
第6回：兄弟やペットがいるかどうか尋ねる			
第7回：「お腹が空いた」「喉が渴いた」などの状態を表現する、イタリア各地の地名、どこに住んでいるか尋ねる			
第8回：職業を尋ねる			
第9回：大学の専攻を尋ねる			
第10回：何語を話せるか尋ねる			
第11回：レストランで注文する			
第12回：どちらが好きか尋ねる			
第13回：今晚何をするか尋ねる			
第14回：お店の開店時刻、閉店時刻を尋ねる			
第15回：まとめと解説			
テキスト			
遠藤礼子『Un piatto d' italiano イタリア語ひとさら』白水社 2006年			

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験80%、儒号態度20%

教科書の各課終了時に復習のためのテストを実施する。テストの点数をもとに授業に取り組む態度も考慮しながら総合的に成績評価を行う。

授業科目名： イタリア語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： Martina Diego
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業は、イタリア語Ⅰを修了した人を対象とする。イタリア語で初歩的なコミュニケーションを図ることを目標に、基本的な文法や単語を学ぶ。イタリア語Ⅰとイタリア語Ⅱを合わせて1年間分の授業で、日常生活に必要なイタリア語の基礎が理解できるようになる。			
授業の概要			
教科書に沿って授業を進める。教科書はイタリア語の初歩的な対話と単語で構成されている。教科書を一緒に読みながら、基本となる文法や単語を少しずつ学んでゆく。よく使われる表現を口頭で繰り返し練習し、自在に使えるようにする。さらに巻末の練習問題を解きながら、簡単なイタリア語の文を読むこと、書くことにも取り組む。			
授業計画			
第1回：お店の開店時刻と閉店時刻を尋ねる			
第2回：サッカー（バレーボール、等）が好きか尋ねる			
第3回：猫（犬、等）が好きか尋ねる			
第4回：サッカー（バレーボール、等）をするのが好きか尋ねる			
第5回：何時に起きるのか尋ねる			
第6回：どこに行くのか尋ねる			
第7回：どうやって大学（学校、等）に来るのか尋ねる			
第8回：何時に家を出る（朝食をとる、等）か尋ねる			
第9回：「～できる」「～したい」と表現する			
第10回：「～しなければならない」、「～してもいい」と表現する			
第11回：今週末何をしたのかを尋ねる			
第12回：今週末どこに行ったのかを尋ねる			
第13回：すし（その他の食べ物）を食べたことがあるか尋ねる			
第14回：ローマ（その他の都市）に行ったことがあるか尋ねる			
第15回：まとめと解説			
テキスト			
遠藤礼子『イタリア語ひとさら 改訂版』白水社 2006年			
参考書・参考資料等			

なし

学生に対する評価

試験80%、授業態度20%

教科書の各課終了時に復習のための試験を実施する。試験の点数をもとに授業に取り組む態度も考慮しながら総合的に成績評価を行う。

授業科目名： スペイン語Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水 純子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
スペイン語は、規則を理解すれば、きちんと発音できる言語である。アルファベット・発音の規則からしっかり学習し、スペイン語をまずはきちんと読めるようになる。次に、必要な単語やフレーズを暗記し、暗唱できるようにする。さらに、主語によって動詞の形が変化することや「主語と動詞」がスペイン語の核であることを理解し、スペイン語で考えることが出来るようになる。最終的には、現在形での簡単なコミュニケーションが出来るようにする。			
授業の概要			
1 つの課を 3 回の授業で終了させる。			
各課がスタートする前に、各課冒頭の語彙を発音し、覚える努力をしてから授業に臨むことを勧める。授業では発話での確認を主に進めていくので、楽しみながら発声しよう。授業でやった内容を忘れないうちに、教科書付属の練習ノートに取り組もう。練習ノートは、前回授業の復習として、授業の冒頭で用いるので、課題部分を済ませた状態で授業に持参すること。			
第 1 週目：基本的な語彙の確認 基本練習（各課第 1 ページ～第 3 ページ）			
第 2 週目：基本的な語彙の復習発展練習（各課第 1 ページ、第 4～第 5 ページ）			
第 3 週目：基本的な語彙の復習（各課第 1 ページ） 語彙拡充 ロールプレイ 発音練習 文化について			
授業終了後には、授業の内容を反映させたドリルをマナバ上で実施し、復習をしよう。			
ドリルは合格点（90 点）に達するまで取り組むこと。最高得点での評価とする。			
ドリルの内容を毎授業の冒頭でテストをするので、ドリルを使用して反復練習をしておこう。			
学期末に学習の定着度を測るためにレポートを課す。レポートは、スペイン語と日本語とそれぞれ 1 テーマずつとなる予定である。			
「通じる楽しいスペイン語」を目指して、語彙拡充に努めるとともに、音声教材を聞いて音読することも大切にしてほしい。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション／アルファベット あいさつ／第 1 課 あいさつと発音 講読 会話			
第 2 回：数詞 アクセント			
第 3 回：イントロダクション まとめ練習 発音練習			

第4回：第1課 主語代名詞 職業 国籍 動詞 ser estar
 第5回：第1課 疑問文と答え 語順とイントネーション
 第6回：第1課 まとめ練習 発音練習
 第7回：第2課 一般動詞の活用
 第8回：第2課 名詞の数、冠詞、前置詞、所有形容詞前置形
 第9回：第2課 まとめ練習 発音練習
 第10回：第3課 親族関係の名詞 形容詞 現在形の規則動詞
 第11回：第3課 比較級 最上級 疑問詞 時刻
 第12回：第3課 まとめ練習 発音練習
 第13回：第4課 存在文 現在形の不規則動詞（1）
 第14回：第4課 ser + 形容詞 estar + 形容詞
 第15回：第4課 まとめ練習 発音練習

テキスト

浦 眞佐子『イラストで楽しもう、スペイン語！ 改訂版』朝日出版社 2021年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験50%、レポート40%、授業態度10%

授業科目名： スペイン語 I		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松本 有希子
				担当形態： 単独
科 目		教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
初めてスペイン語に接する学生を対象とし、次のことを目標とする。（１）スペイン語のしくみ（文法）を知る（２）語彙を増やしてコミュニケーションに使える表現を学ぶ（３）スペイン語を話す国々についての知識を増やす				
授業の概要				
教科書の各課は会話と文法、練習問題と文化コラムで構成されている。会話文の音読でスペイン語の音とリズムに親しみ、その次に言葉の仕組みと実践的な表現を学んで練習問題で文法をしっかりと身につける。さらにペアでの会話練習を通して実践力を向上させる。ひとつの課を終えるごとに小テストを行い、理解度を確認する。スペイン語の辞書の使い方や効果的な学習方法も説明する。				
授業計画				
第1回：イントロダクション アルファベット、発音、アクセントのルール、挨拶				
第2回：1 君はどこの出身？ 君はこの大学の学生なの？（主語代名詞 動詞ser 名詞）				
第3回：1 文法練習、作文と会話、リスニング（名詞）				
第4回：2 こんにちは、元気？（形容詞 動詞estar）				
第5回：2 文法練習、作文と会話、リスニング（いろいろな形容詞）				
第6回：3 この近くに薬局ありますか？（存在を表す動詞Hay 動詞estarの2 数）				
第7回：3 文法練習、作文と会話、リスニング（定冠詞と不定冠詞）				
第8回：4 ぼくはオレンジジュースを飲むよ（規則動詞）				
第9回：4 文法練習、作文と会話、リスニング（目的語につく前置詞a）				
第10回：5 君はアヤを知ってる？（間接目的語と直接目的語を言い換える人称代名詞）				
第11回：5 文法練習、作文と会話、リスニング（不規則動詞 曜日と月と四季）				
第12回：6 ディズニーランドへ行こう！（不規則動詞の2 不定詞表現2つ）				
第13回：6 文法練習、作文と会話、リスニング（所有形容詞）				
第14回：ここまでの復習練習とステップアップ文法				
第15回：学期のまとめと振り返りテスト				
テキスト				
宇野和美、平井素子、Paula Letelier『イデアル IDEAL(改訂新版)』同学社 2022年				

鼓直ほか『プログレッシブ スペイン語辞典（第2版） カレッジエディション』小学館 2016年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験50%、授業態度50%

「試験」は各課ごと的小テストと15回目の振り返りテストを指す。「授業態度」では真剣かつ積極的な取り組み姿勢を評価する。辞書を準備していない場合は、“真剣かつ積極的な取り組み姿勢”ではないと判断し、減点対象とする。

授業科目名： スペイン語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水 純子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
スペイン語Iを履修した人を対象に、さらにスペイン語の基礎文法を学ぶ授業である。具体的には（１）スペイン語の核ともいえる動詞を現在形で使いこなせるようになる、（２）英語とはかなり使用方法が異なる目的格人称代名詞の使い方を理解する、（３）gustar型動詞、再帰動詞など英語とはかなり異なる表現方法をする動詞をマスターする、の3点を中心に色々な表現を拡充していく。本授業を修了することによって、スペイン語検定6級レベルに到達していることを目標とする。また、本授業によって、スペイン語的な考え方に触れて、世界の様々な文化の違いにも想いを寄せられるようになると良いと思う。			
授業の概要			
1 つの課を 3 回の授業で終了させる。			
各課がスタートする前に、各課冒頭の語彙を発音し、覚える努力をしてから授業に臨むことを勧める。授業では発話での確認を主に進めていくので、楽しみながら発声しよう。授業でやった内容を忘れないうちに、教科書付属の練習ノートに取り組もう。練習ノートは、前回授業の復習として、授業の冒頭で用いるので、課題部分を済ませた状態で授業に持参すること。			
第 1 週目：基本的な語彙の確認 基本練習（各課第 1 ページ～第 3 ページ）			
第 2 週目：基本的な語彙の復習発展練習（各課第 1 ページ、第 4～第 5 ページ）			
第 3 週目：基本的な語彙の復習（各課第 1 ページ） 語彙拡充 ロールプレイ 発音練習 文化について			
授業終了後には、授業の内容を反映させたドリルをマナバ上で実施し、復習をしよう。			
ドリルは合格点（90 点）に達するまで取り組むこと。最高得点での評価とする。			
ドリルの内容を毎授業の冒頭でテストをするので、ドリルを使用して反復練習をしておこう。			
学期末に学習の定着度を測るためにレポートを課す。レポートは、スペイン語と日本語とそれぞれ 1 テーマずつとなる予定である。			
「通じる楽しいスペイン語」を目指して、語彙拡充に努めるとともに、音声教材を聞いて音読することも大切にしてほしい。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション／第 5 課 gustar型動詞			
第 2 回：第 5 課 天気表現 心身の状態			

第3回：第5課　まとめ練習　発音練習
第4回：第6課　語根母音変化動詞　料理　衣類と持ち物　大きな数
第5回：第6課　誘い　依頼　許可
第6回：第6課　まとめ練習　発音練習
第7回：第7課　再帰動詞　移動動詞　時刻
第8回：第7課　頻度の表現　曜日
第9回：第7課　まとめ練習　発音練習
第10回：第8課　行事とあいさつ　目的格代名詞　現在形の規則動詞
第11回：第8課　現在進行形　疑問詞　時刻
第12回：第8課　まとめ練習　発音練習
第13回：第9課　痛みの表現　感情の表現　アドバイス　現在形の不規則動詞（1）
第14回：第9課　複文　考えや思いを伝える　伝聞表現
第15回：第9課　まとめ練習　発音練習
テキスト
浦　眞佐子『イラストで楽しもう、スペイン語！　改訂版』朝日出版社　2021年
参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
試験50%、レポート40%、授業態度10%

授業科目名： スペイン語Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松本 有希子
			担当形態： 単独
科 目	教育免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
スペイン語の規則動詞を学習したことのある学生を対象とし、次のことを目標とする。（１）文法の学習を進め、さらに多くの語彙を覚える （２）コミュニケーションの表現のストックを増やす （３）スペイン語検定 6 級相当の文法を学ぶ （４）スペイン語圏に関する情報に積極的に触れていく			
授業の概要			
教科書の各課は会話と文法、練習問題と文化コラムで構成されている。会話文の音読でスペイン語の音とリズムに親しみ、その次に言葉の仕組みと実践的な表現を学んで練習問題で文法をしっかりと身につける。さらにペアでの会話練習を通して実践力を向上させる。各課終了ごとの小テストで、理解度を確認する。スペイン語の辞書の使い方や効果的な学習方法も説明する。			
授業計画			
第1回：これまで学習したことの復習			
第2回：7 スポーツしたいな（不規則動詞）			
第3回：7 文法練習、作文と会話、リスニング（指示形容詞）			
第4回：8 わたしたちここで手を洗います（再帰代名詞を伴う動詞）			
第5回：8 文法練習、作文と会話、リスニング（体の部位、身につけるもの）			
第6回：9 わたしは自然が好きです（gustar型動詞 比較表現）			
第7回：9 文法練習、作文と会話、リスニング（物の名前の知識を増やそう）			
第8回：10 昨日これを買いました（スペイン語の過去形1 点過去）			
第9回：10 文法練習、作文と会話、リスニング（世界の地域の呼び方、スペイン語圏ってどこのこと？）			
第10回：11 こどもの頃、ぼくは…（スペイン語の過去形2 線過去）			
第11回：11 文法練習、作文と会話、リスニング（点過去と線過去、ふたつの過去形の使い方）			
第12回：12 今週末、君は何をしたの？（現在完了 過去分詞と現在分詞）			
第13回：12 文法練習、作文と会話、リスニング（旅行に持っていくもの）			
第14回：ここまでの復習練習とステップアップ文法			
第15回：まとめと振り返りテスト			

テキスト

宇野和美、平井素子、Paula Letelier『イデアル IDEAL(改訂新版)』同学社 2022年

鼓直ほか『プログレッシブ スペイン語辞典(第2版) カレッジエディション』小学館 2016年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

試験50%、授業態度50%

「試験」は各課ごと的小テストと15回目の振り返りテストを指す。「授業態度」では” 真剣かつ積極的な取り組み姿勢”を評価する。辞書を準備していない場合は、“真剣かつ積極的な取り組み姿勢”ではないと判断し、減点対象とする。

授業科目名： コンピュータリテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤由樹
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
日常生活および学生として活動する上で必要とされるコンピュータリテラシーの習得を目標とする。具体的には、1)学内のコンピュータ環境の利用方法を知る、2)インターネットに関する基礎的な仕組みを理解する、3)文書・レポートの作成、データの集計および発表資料の作成に関わる文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を身に付ける。			
授業の概要			
この授業では毎回、インターネットに接続されたパソコンを使った演習を通して、情報社会で不可欠なICT活用の基礎を習得する。具体的には、タイピング練習から始めて、コンピュータ、インターネットの基礎知識やブラウザを使ったWeb上の操作を学び、Microsoft Word（文書作成）、Excel（表計算）、PowerPoint（プレゼンテーション）の基本的な機能を使った演習を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：情報処理室の使い方、OSの基本操作、タイピング練習の仕方			
第2回：コンピュータとインターネットの仕組み			
第3回：文書作成(1)：文字入力、文字の修飾			
第4回：文書作成(2)：段落、拡張書式			
第5回：文書作成(3)：罫線と図形描画			
第6回：文書作成(4)：総合的な文書の作成			
第7回：表計算(1)：表計算の基本機能、計算式、グラフ作成			
第8回：表計算(2)：オートフィル、相対参照と絶対参照			
第9回：表計算(3)：関数の基礎			
第10回：表計算(4)：関数の応用			
第11回：表計算(5)：データ集計			
第12回：プレゼンテーション(1)：箇条書き、図形描画、アニメーション			
第13回：プレゼンテーション(2)：スライド制作			
第14回：Word、Excel、PowerPointを使った最終課題：情報収集とデータ分析			
第15回：Word、Excel、PowerPointを使った最終課題（続き）：情報の整理と表現			

定期試験
テキスト 使用しない。毎回、担当教員が作成した授業資料を配付する。
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価 この授業を通して身に付けたICT活用能力について、各回の演習や最終課題を総合的に評価する。

授業科目名： 教育の原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原 圭寛・山本 一生
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、教育の理念並びに基本的諸概念を、その歴史や思想の変遷を含んで基本的知識を講義し、受講者による理解を目指す。具体的には、①学力形成をめぐる教授と学習論を軸として、その理念と歴史と思想の変遷をつかめるようにする ②家族・子どもの生活と教育との関連要因と相互関係を事例に即してつかみ、その基本的諸概念を理解できるようにする ③意図的組織的教育制度である学校の歴史的変遷をたどりつつ、学校・教員の位置と役割についての基本的概念を理解できるようにする。			
授業の概要			
上記目標に迫るため、受講生の学校体験の振り返りを出発点として、学校・教師の位置・役割の変遷につなげられるようにしたい。また、過去と今日の学力問題の諸説を紹介しながら、教授と学習をめぐる諸概念を深められるようにしたい。さらに、家族と子どもの生活の変遷とそこへの教育的対応をめぐる歴史と理念を、視聴覚教材・実践記録も活用しつつ理解できるようにしたい。			
授業計画			
第1回：ガイダンスー「教育の原理」の対象範囲とアプローチの特徴			
第2回：受講生の「学校体験」の振り返りー実際に学校は生徒にどんな役割を果たしてきたか			
第3回：学力形成と教授・学習の理論と歴史（1）国際リテラシー調査と日本の学力			
第4回：学力形成と教授・学習の理論と歴史（2）日本の子どもの学習意識			
第5回：学力形成と教授・学習の理論と歴史（3）学力形成の歴史			
第6回：学力形成と教授・学習の理論と歴史（4）教授学習の理論とその変遷			
第7回：家族・子どもの生活と教育的対応の歴史と理念（1）戦争・貧困と義務教育未終了			
第8回：家族・子どもの生活と教育的対応の歴史と理念（2）世界の子どもの権利実態と教育			
第9回：家族・子どもの生活と教育的対応の歴史と理念（3）権利条約と教育を受ける権利			
第10回：家族・子どもの生活と教育的対応の歴史と理念（4）総合的学習の可能性			
第11回：学校の歴史的変遷と学校・教員の位置と役割（1）近代以前の学校の位置			
第12回：学校の歴史的変遷と学校・教員の位置と役割（2）近代教育制度の発足と理念			
第13回：学校の歴史的変遷と学校・教員の位置と役割（3）現代における教育制度と課題			
第14回：学校の歴史的変遷と学校・教員の位置と役割（4）社会変動と学校の相互連関			

第15回：まとめ 「教育の原理」をあらためて捉え直す 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版 その他、適宜紹介します。
学生に対する評価 リアクションペーパー、グループワーク、定期試験から総合的に評価します。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田充保
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識・技術について理解・習得を目指します。具体的には①教師の労働実態を踏まえつつ、組織としての学校における多様で多面的な日常の教員の役割を理解する。②「教育課程と授業」「生徒へのケアとクラス」「学校運営と校務分掌」「地域との連携」等に即して、教員の職務内容の基本を理解する。③教師の「困難とやりがい」等の教師文化、並びに社会からの要請も踏まえつつ、教職の意義を理解する。			
授業の概要			
上記目標に迫るため、まず受講生の教師体験の振り返り、並びに教師の日常の仕事の実際から、教員の役割を考察する。また、教師の「困難とやりがい」等の教職に対する自意識や保護者や地域住民からの要請を検討する。さらにいくつかの柱に即して、「教員の主要任務」の実際を、視聴覚教材や実践記録等を素材に考察する。			
授業計画			
第1回：ガイダンスー教職論の範囲とアプローチ			
第2回：受講生の教師体験の振り返りー実際に教員は生徒にどんな役割を果たしていたか			
第3回：教員の労働実態（1） 日常の仕事と年間			
第4回：教員の労働実態（2） 諸外国との比較			
第5回：日本の教員文化（1） 困難をどう受け止めているか			
第6回：日本の教員文化（2） どこにやりがいを感じているか			
第7回：社会からの教員に対する評価と要請（1） 保護者			
第8回：社会からの教員に対する評価と要請（2） 地域住民と教育委員会			
第9回：教員の主要任務（1） 教育課程と授業			
第10回：教員の主要任務（2） 生徒へのケアとクラス			
第11回：教員の主要任務（3） 学校運営と校務分掌			
第12回：教員の主要任務（4） 専門家を含む地域との連携（チーム学校への対応）			
第13回：教員の権利と責務（1） 地位と役割、研修権等			
第14回：教員の権利と責務（2） 労働条件と服務等			
第15回：現代における教職と将来			

定期試験
テキスト その都度、指示をします。
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、 文部科学省『生徒指導提要』最新版 その他参考資料は適宜指示します。
学生に対する評価 期末レポート・リアクションレポート・講義内学習作業への参加により総合的に評価します。

授業科目名： 教育の制度	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森田 満夫
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 教育制度の基本的な原理を、具体的な制度や社会、学校現場と関連付けて考えられるようになる。 ・ 諸制度が作られた歴史的経緯を踏まえながら現在の教育制度の課題を指摘できるようになる。			
授業の概要			
日本の教育を支えてきた制度や、その制度が現在抱えている課題を学習する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：近代教育制度のはじまり①（近代教育制度の理念・成立の歴史）			
第3回：近代教育制度のはじまり②（日本の近代教育制度の成立・戦前の教育）			
第4回：教育における権利と義務			
第5回：学校体系の3つの種類、学校と地域の連携			
第6回：幼稚園と保育所			
第7回：学校安全・中間試験			
第8回：「学校」の制度とその課題①			
第9回：「学校」の制度とその課題②			
第10回：特別支援教育とその制度			
第11回：学校給食・栄養教諭の制度			
第12回：専門職としての教師①			
第13回：専門職としての教師②			
第14回：社会教育と生涯学習			
第15回：後半のまとめ			
テキスト			
指定しない			
参考書・参考資料等			
久富善之・長谷川裕・山崎鎮親編著（2010）『図説教育の論点』旬報社 木村元・小玉重夫・船橋一男著（2009）『教育学をつかむ』有斐閣 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版			
学生に対する評価			

中間試験（40%）、期末レポート（40%）、授業リアクションペーパー（20%）により総合的に評価する。成績評価の詳細については授業時に説明する。

授業科目名： 教育心理学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 茂垣 まどか
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
教育心理学の基本的な概念や理論を理解し、それを実践に活かす思考力を身につける。				
授業の概要				
人間の発達、および学習、教授法、評価法をテーマとして教育現場に活かせる心理学的知見を紹介していく。				
授業計画				
第1回：教育心理学の枠組み・方法論				
第2回：発達観・発達段階				
第3回：知的発達と学習				
第4回：自己の発達				
第5回：記憶の仕組み				
第6回：知識・問題解決				
第7回：条件付けと学習				
第8回：学習を支える意欲				
第9回：学習指導の形態・学習方法				
第10回：教育評価				
第11回：学級集団と人間関係				
第12回：発達障害				
第13回：学校臨床				
第14回：カウンセリングとは				
第15回：総まとめ：理論を実践に活かすとは				
定期試験				
テキスト				
鎌原雅彦・竹綱誠一郎(2015).『やさしい教育心理学第4版』，有斐閣アルマ				
参考書・参考資料等				
文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版				
授業時、随時配布する。				
学生に対する評価				
定期試験（70％）、授業態度（毎回のコメントペーパーも含む）（30％）				

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 増南 太志
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
障害等のある幼児児童生徒の特別な教育的ニーズに対応する「特別支援教育」の理念と概要の基礎的な理解を修得するとともに、教諭として特別な支援を必要とする生徒への適切な対応ができる実践力を身につける。			
授業の概要			
特別支援教育の理念や概要、対象となる生徒の障害や特別な教育的ニーズについて、正しく理解するとともに、特別支援教育の歴史、制度、仕組み、教育課程、等についても基礎的知識を学ぶ。また、学校における特別支援教育の具体的な進め方や、合理的配慮、インクルーシブ教育システムの構築、ユニバーサルデザインの授業等についても理解を図る。 それぞれの知識の理論だけでなく、学校現場の状況や課題など踏まえたものとする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、障害とは何か、I C F			
第2回：特別支援教育の背景と歴史			
第3回：特別支援教育の制度（特別支援学校や学級、通常学級や通級指導における特別支援教育）			
第4回：特別支援教育の体制 1、特別支援教育の状況、特別支援コーディネーターの役割、自立活動など			
第5回：特別支援教育の体制 2、特別支援学校の役割、個別の教育支援、個別の指導計画、自立活動など			
第6回：障害者権利条約、合理的配慮、障害はないものの特別支援教育の対象となる児童生徒			
第7回：インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインの授業			
第8回：学校における特別支援教育の実際(外部講師)			
第9回：特別支援教育の対象 1（発達障害）			
第10回：特別支援教育の対象 2（知的障害）			
第11回：特別支援教育の対象 3（肢体不自由）			
第12回：特別支援教育の対象 4（病弱・言語障害・情緒障害）			
第13回：特別支援教育の対象 5（視覚障害、聴覚障害）、障害児のある生徒のキャリア教育			
第14回：障害のある生徒の就労、共生社会を目指すインクルーシブ教育			
第15回：特別支援教育の今後と課題　まとめと解説			

テキスト
資料を配付し、参考文献を紹介する
参考書・参考資料等
文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版
学生に対する評価
出席及び授業態度（３０％）、ショートレポート（３０％）、期末試験（４０％）

授業科目名： カリキュラム論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松永 幸子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
日本の公教育の学校におけるカリキュラム・教育課程について、学習指導要領との関係を含めて、その意義や役割、編成の方法や理論を理解すること、および学校教育現場におけるカリキュラム・マネジメントについての理解を目指します。			
① 学校教育のカリキュラム・教育課程の役割・位置などを理解する。			
② カリキュラム・教育課程の基本的な理論や実践的な編成について理解する。			
③ 学校教育全体のカリキュラム・マネジメントについて理解する。			
授業の概要			
日本の公教育の学校カリキュラム・教育課程を主題に、学習指導要領および教育課程行政、カリキュラム理論、カリキュラム編成の考え方、カリキュラム開発と評価、カリキュラムの国際比較、カリキュラムと学力の関係等を取り上げ、グループワークと講義を行っていきます。			
授業計画			
第1回：カリキュラムとは何か（1） 学校教育・公教育とカリキュラム			
第2回：カリキュラムとは何か（2） カリキュラムと教育課程			
第3回：カリキュラムの考え方（1） 普通教育と職業教育 履修主義と修得主義			
第4回：カリキュラムの考え方（2） 系統主義と経験主義			
第5回：カリキュラムと学習指導要領（1） 学習指導要領の位置と性格 教育課程行政含む			
第6回：カリキュラムと学習指導要領（2） 学習指導要領の変遷と考え方			
第7回：カリキュラム開発（1） カリキュラム開発とマネージメント			
第8回：カリキュラム開発（2） カリキュラム評価とマネージメント			
第9回：カリキュラム編成とデザイン（1） 教育目標と教育内容			
第10回：カリキュラム編成とデザイン（2） 内容の選択 スコープとシーケンス			
第11回：カリキュラム編成とデザイン（3） 学習者の学習計画としてのカリキュラム			
第12回：カリキュラム編成とデザイン（4） 教育資源の活用（地域連携等含む）			
第13回：カリキュラムと学力（1） 学力の新しい考え方とカリキュラム			
第14回：カリキュラムと学力（2） コンピテンスの育成、知識の活用型のカリキュラム			
第15回：まとめと今後の課題			
定期試験			

テキスト
特にない。毎回プリントを配布し、資料を配付します
参考書・参考資料等
文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版 田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房。それ以外は適宜紹介
学生に対する評価
中間レポート、グループワーク時の小レポート、最終試験から総合評価を行います。

授業科目名： 道徳教育論		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 松永 幸子
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 道徳教育の意義、特徴、方法について説明できる。				
2. 道徳教育の現状や教科化への動きなどを理解し、今後の動向を説明できる。				
3. 道徳教育を行う教師としての心構えについて、自分の考えを述べることができる。				
4. 道徳の授業指導案を作成でき、実際に授業展開することができる。				
授業の概要				
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。				
道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（授業の概要、内容、成績評価についての説明）、道徳教育の教科化について理解する。				
第2回：道徳教育の原理について考える（1）道徳を教えることについて				
第3回：道徳教育の原理について考える（2）日本における人間関係について				
第4回：道徳教育の原理について考える（3）道徳教育に求められる主体性について				
第5回：道徳教育の原理について考える（4）道徳性の発達について				
第6回：道徳教育の歴史について考える（1）修身教育について				
第7回：道徳教育の歴史について考える（2）戦後民主化と社会科の新設について				
第8回：道徳教育の歴史について考える（3）道徳の時間特設以降の動きについて				
第9回：道徳教育の実践・方法について考える（1）伝達型授業の特徴について				
第10回：道徳教育の実践・方法について考える（2）参加型教育方法について				
第11回：道徳の評価方法及び教育課程・指導計画について				
第12回：模擬授業の実施（1）小学校低学年対象の授業について				
第13回：模擬授業の実施（2）小学校高学年対象の授業、中学校対象の授業について				

第14回：模擬授業の実施（3）中学校対象の授業について

第15回：現代社会における道徳教育について考える

テキスト

渡辺雅之『いじめ・レイシズムを乗り越える「道徳」教育：暗闇（ダークサイド）から希望のベクトルへ』高文研、2014年

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版

学生に対する評価

中間試験（小論文）30%、道徳授業指導案作成及び模擬授業の実施30%、最終レポート20%、リアクションペーパー10%、授業態度10%

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 制野 俊弘 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習(探究)の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 「総合的な学習の時間」の一般的な目標・内容・方法について学ぶとともに、これまで行われた優れた先行実践例を通して、現代の子どもにとって必要な「生きる力」の実体的認識を深め、新たなテーマの実践化を具体的に構想することができる。			
授業の概要 学習指導要領をもとに「総合的な学習の時間」の一般的な目標・内容・方法について学ぶ。さらに優れた先行実践の比較・分析を通して、自分が将来担うであろう発達階段に即して、具体的な指導案を作成し、その実現可能性を探る。			
授業計画 第1回：「総合的な学習の時間」が設定された経緯と、その特徴（教科を超えた資質・能力等）について 第2回：学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標と、各学校における教育目標及び内容の関連について 第3回：「総合的な学習の時間」における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習方法について 第4回：先行実践に学ぶ①徳水博志「森・川・海と人をつなぐ環境教育」の目標・目的を中心に 第5回：先行実践に学ぶ②徳水博志「森・川・海と人をつなぐ環境教育」の内容を中心に 第6回：先行実践に学ぶ③徳水博志「森・川・海と人をつなぐ環境教育」の方法を中心に 第7回：先行実践に学ぶ④制野俊弘「命と向きあう教室」の背景を中心に 第8回：先行実践に学ぶ⑤制野俊弘「命と向きあう教室」の目的・内容を中心に 第9回：先行実践に学ぶ⑥制野俊弘「命と向きあう教室」の方法を中心に 第10回：「総合的な学習の時間」の教材研究法①～自然科学的なアプローチ～ 第11回：「総合的な学習の時間」の教材研究法②～社会科学的なアプローチ～ 第12回：具体的な指導案の作成①新しいテーマの設定について 第13回：具体的な指導案の作成②授業の目標の検討 第14回：具体的な指導案の作成③授業の内容・方法の検討 第15回：まとめ／最終レポートの作成			

テキスト

制野俊弘『命と向きあう教室』ポプラ社、2016年

徳水博志『森・川・海と人をつなぐ環境教育』明治図書、2004年

文部科学省『小学校学習指導要領』最新版

文部科学省『中学校学習指導要領』最新版

文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版

文部科学省『生徒指導提要』最新版

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

毎回の授業の最後に提出するレポート（80％），最後に提出するまとめのレポート（20％）

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永 幸子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、学校教育全体における特別活動の意義や目標の理解、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」という三つの視点の取得、「チームとしての学校」の視点の理解を、特別活動の学年別の変化、教科教育との連関、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や技術の修得を目指します。			
① 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。			
② 特別活動の指導の在り方を理解する。			
授業の概要			
特別活動は、学校でのさまざまな集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、集団や学校生活の向上を目指して行われるさまざまな活動の全体を指します。この授業では、学校教育における特別活動の位置と性格や特別活動の様々な活動、具体的な指導のあり方をグループワークを行いながら進めていきます。とくにクラス活動を中心に据えて、担任教師の役割、クラスづくり、生徒の関係づくりなどを中心に具体的な素材を使いながら進めていきます。			
授業計画			
第1回：学校教育における特別活動の位置（1） 特別活動とは何か			
第2回：学校教育における特別活動の位置（2） 学校の教育課程・教育計画との関係			
第3回：特別活動の目標と内容（1） 教育目標と内容：児童会・生徒会、クラブ活動、学校行事を含む			
第4回：特別活動の目標と内容（2） 学級活動・ホームルーム活動			
第5回：集団づくりの基礎理論（1） 社会組織としてのクラスの特性			
第6回：集団づくりの基礎理論（2） 生徒集団の心理社会的構造と発達段階			
第7回：特別活動としてのクラスづくり（1） つながりのあるクラス 班活動・集づくり			
第8回：特別活動としてのクラスづくり（2） クラスづくりの事例の検討 指導の工夫			
第9回：特別活動としてのクラスづくり（3） クラスづくりの事例の検討 関係づくりの実際			
第10回：特別活動としてのクラスづくり（4） 生徒間のつながりをつくる工夫としかけ			
第11回：特別活動の展開（1） 学校行事とクラス活動の連携			
第12回：特別活動の展開（2） クラス活動、学校行事と地域・家庭との連携			

第13回：特別活動の展開（3） 生徒の参加と自治の工夫 第14回：特別活動の探究と課題 学校内連携と学校外連携（チーム学校、地域連携等） 第15回：まとめ 定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版 その他、適宜紹介します。
学生に対する評価 グループワーク、その都度提出されるレポート、最終レポートから総合的に評価します。

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 松永 幸子
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
教育の方法及び技術では、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識と技術の理解・習得を目指します。			
① 適切な指導方法や技術に関する理解			
② 教材や教具、情報機器の活用に関する理解			
③ 生徒の学習過程の理解とそれに即した授業デザインの理解			
授業の概要			
学校の実際の授業のあり方を中心にして、諸外国の授業例との比較も交えながら、知識の伝達と習得、指導過程・指導法の工夫、指導計画、学習指導案、学習の実際、学習形態の工夫、学習と理解に関する心理学的知見、教材・教具の理論と活用、情報機器の活用等に関して、グループワークと講義を進めていきます。			
授業計画			
第1回：教育方法と授業（1） 教育方法とは 授業の基本構成要素			
第2回：教育方法と授業（2） カリキュラムと授業 指導過程と学習形態			
第3回：授業のタイプ（1） 一斉教授法の特徴と問題点			
第4回：授業のタイプ（2） 伝達型とアクティブ型 模倣型と変容型			
第5回：学習の過程（1） 学習論 模倣 社会的構成主義の学習			
第6回：学習の過程（2） 主体的な学びと指導との関係			
第7回：理解と習熟（1） 行動主義の学習と構成主義の学習の考え方			
第8回：理解と習熟（2） 適応的習熟と形式的習熟と熟達化			
第9回：教材と教具（1） 教材と教具の意味			
第10回：教材と教具（2） 情報機器教材・教具とその活用			
第11回：指導過程の開発と工夫（1） コミュニケーションの工夫			
第12回：指導過程の開発と工夫（2） 学習形態の工夫			
第13回：授業のデザイン（1） 指導計画と学習指導案			
第14回：授業のデザイン（2） 教育評価と授業			
第15回：まとめ			

定期試験
テキスト その都度指定する
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、 文部科学省『生徒指導提要』最新版
学生に対する評価 試験・中間レポート・授業内小レポートにより総合的に評価します

授業科目名： 情報通信技術の活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 加藤 由樹
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
社会の急速なデジタル化は教育現場においても例外ではない。学習指導や校務で情報通信技術を活用する知識と技能はすべての教員に必須である。更に、児童及び生徒に情報モラルを含む情報活用能力を指導できることも求められている。そこで、本授業科目では以下の到達目標を掲げる。 (1) 情報通信技術の活用の意義と理論を理解している。 (2) 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解している。 (3) 児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付けている。			
授業の概要			
情報通信技術を活用する知識や技能はすべての教員に必須である。この授業科目では、情報通信技術を活用した学習指導や校務の考え方や理論、情報通信技術を活用することで実現する個別最適な学びや協働的な学び、児童及び生徒に情報活用能力を育むための指導法について、講義と演習を通して学ぶ。			
授業計画			
第1回：現代社会のICT（情報通信技術）と教育におけるICT活用の意義			
第2回：ICTの発展による教員の指導力の変化と教員に必須のICT活用指導力			
第3回：ICTによる個別最適化された学びと協働的な学びの実現と一体化			
第4回：特別支援教育におけるICTの活用と留意点			
第5回：校務の情報化、教育データの活用、カリキュラム・マネジメント			
第6回：情報活用能力の育成：プログラミング教育とプログラミング的思考			
第7回：情報活用能力の育成：情報モラル、情報セキュリティ			
第8回：教育における先端技術の活用、探求的な学び・STEAM教育			
テキスト			
稲垣忠・佐藤和紀（編著）『ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして』北大路書房，2021年。ISBN 978-4762831805			
参考書・参考資料等			
文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版			

授業中に、教員が用意した「授業実践事例」や「ICT機器の操作方法」などの資料を配付する。

学生に対する評価

授業中の演習課題 60%、最終レポート 40%

授業科目名： 生徒・進路指導		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 富田 充保・三浦 芳恵
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
生徒指導・進路指導は、教科教育と同様に学校教育において要となる教育活動である。その一方で、体系化されたカリキュラムが存在する教科教育とは異なり、生徒指導・進路指導の教育実践は、日々の児童生徒の様子を理解しながら営まれる実践であるため、常にその役割や意義を理解しながら児童生徒と関わっていく必要がある。そこで本授業では、主に以下のことを目標とする。①学校教育における生徒指導・進路指導が担う役割を理解する、②生徒指導・進路指導の実践が社会と密接に関連したものであることを理解する、③生徒指導・進路指導上の課題を理解し、自らが実践する際の視点・思考法を獲得する。				
授業の概要				
生徒指導・進路指導の役割や課題は、社会の状況と密接に関連したものである。そこで、現在の生徒指導・進路指導の役割はどのような歴史的な経緯を経て求められるようになってきたのか、また、現在の具体的な教育問題についての検討を通して、現在求められている生徒指導・進路指導の実践を考えていく。さらに、生徒指導・進路指導を営む上で肝要なのは、児童生徒理解である。私たち（教師）は、どのように他者（児童生徒）を理解しているのかという理論的な検討を踏まえて、生徒指導・進路指導を実践する上での課題を考えていく。				
授業計画				
第1回：オリエンテーションー現代社会に求められる生徒指導・進路指導とはー				
第2回：生徒指導の目的と意義ー『生徒指導提要』を中心にー				
第3回：生徒指導・進路指導の歴史				
第4回：児童生徒理解（1）ー生徒指導・進路指導の意義と役割ー				
第5回：児童生徒理解（2）ー「生徒理解」の視点ー				
第6回：現代の教育問題（1）ー「いじめ」問題ー				
第7回：現代の教育問題（2）ー「不登校」問題ー				
第8回：現代の教育問題（3）ー「子どもの貧困」を考えるー				
第9回：現代の教育問題（4）ーエスニック・マイノリティに着目してー				
第10回：進路指導・キャリア教育の目的と意義ー現代的課題に着目してー				
第11回：進路指導の実践と課題（1）ー現代の若者の働き方・労働問題ー				

第12回：進路指導の実践と課題（2）－学校間の接続 青年期の視点から学校を考える－ 第13回：進路指導の実践と課題（3）－若者の労働と生活を支える教育実践 第14回：現代的諸問題から考える学校の指導体制 第15回：現代的諸問題から考える地域や関係機関との連携の必要性
テキスト なし
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版 林尚示、伊藤秀樹編，2016，『生徒指導・進路指導－理論と方法－』学文社。 古賀正義、山田哲也編，2017，『現代社会の児童生徒指導』放送大学教育振興会。
学生に対する評価 レポート（60%）、授業時に数回実施するリアクションペーパー（40%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 圖子田 優子・半田 知佳
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
①教育相談の基礎知識を理解する。			
②児童生徒が呈する心身の症状や問題行動の心理的な背景について説明できる。			
③カウンセリングの理論を理解し、カウンセリングスキルを修得する。			
授業の概要			
本講義では、教育相談の基本的な考え方を概説し、具体的な実践例を通して、児童生徒をとりまく諸問題への対応方法を考える。さらに、学校における教育相談の役割について、カウンセリングの理論・方法・内容の概説を加えながら検討する。			
授業計画			
第1回：教育相談とは			
第2回：生徒理解に役立つ心理学の基礎知識			
第3回：アセスメント			
第4回：カウンセリングの技法			
第5回：ソーシャルスキル教育			
第6回：ストレスマネジメント教育			
第7回：キャリア教育			
第8回：不登校問題の理解と対応			
第9回：事例から学ぶ不登校問題の理解と対応			
第10回：いじめ問題の理解と対応			
第11回：事例から学ぶいじめ問題の理解と対応			
第12回：発達障害の児童生徒の理解と対応			
第13回：学級経営による児童生徒への支援			
第14回：保護者の理解と対応			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
藤田哲也（2017）絶対役立つ教育相談、ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版

学生に対する評価

定期試験（60％）、授業の参加態度（30％）毎回の授業の最後に提出する小レポート（10％）

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習(中・高)		単位数：2単位		担当教員名：富田 充保、松永 幸子	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 40人(2クラスで実施)					
教員の連携・協力体制 必要に応じて、教科教育法担当教員、現職教員、教員経験者等さまざまなゲストティーチャーによるオムニバス形式を取り入れながら実施する。					
授業のテーマ及び到達目標 教職課程での学修をふまえて、学校教育の課題を押さえつつ、教員として必要な資質能力（使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係能力、生徒理解・学級経営、教科の指導力）の受講生ごとの到達点の把握およびさらなる向上のための課題を各自が明らかにする。					
授業の概要 これまでの教職課程の学修における到達点を受講生ごとに把握する。そのために、必要に応じて、教科教育法担当教員、現職教員、教員経験者等さまざまなゲストティーチャーによるオムニバス形式を取り入れながら実施していく。あわせて、教員に必要な資質能力についてのグループ討論、ロールプレイング、模擬授業、指導案・指導計画作成、ICTの利活用に関するワーク、学校現場観察等の活動を行い、教員に必要な実践力の基礎を培っていく。					
授業計画 第1回：教職実践演習の意味と意義の説明 スケジュール確認、課題設定、履修カルテ確認など 第2回：学校教育の最新事情と課題に関する講義 教育の現在を知る 第3回：教職の意義・職務・課題に関する講義 教職を知る 第4回：学校経営・学校安全・学校教員組織および地域連携等に関する講義 チーム学校含む 第5回：学級経営計画に関する講義 学級経営について知る 第6回：生徒理解および学級経営に関する講義とワーク ロールプレイ、グループ討論等実施 第7回：教科の指導力、教科内容に関する講義とワーク 指導力を確認する 第8回：教科教育の模擬授業 指導力を確認する 第9回：特別支援教育に関する講義とワーク 特別支援の最新事情等を知る 第10回：学校におけるICTの利活用に関する講義とワーク ICTの可能性について知る 第11回：学校現場観察(1) 学校教員の仕事の観察 学校業務を経験する 第12回：学校現場観察(2) 授業見学 授業の実際を知る 第13回：学校現場観察(3) 生徒との交流 生徒指導の理解を深める 第14回：学校現場観察(4) 観察の総括と反省 観察結果の意見交換等を行う 第15回：教職に必要な資質能力の確認と課題の明確化 教職に向けての課題の再設定と確認					
テキスト 教職実践演習用自主教材					
参考書・参考資料等					

文部科学省『中学校学習指導要領』最新版、文部科学省『高等学校学習指導要領』最新版、文部科学省『生徒指導提要』最新版

学生に対する評価

レポート、活動状況と内容から総合的に評価

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。